

令和元年度第1回かごしま外国人材受入活躍推進会議の結果（概要）

外国人材受入活躍支援課

1 日 時

令和元年7月26日（金）13時30分～15時

2 場 所

県庁7階会議室 7-総-1

3 出席者

46名（経済・業界団体，監理団体，有識者等，国，市町村，県）

4 協 議

- (1) 県内の雇用状況，外国人労働者の就労状況について
- (2) 外国人材の受入活躍推進に係る県の取組について
- (3) かごしま外国人材受入活躍推進戦略について

(1)～(3)について，配付資料に基づき事務局から説明を行った。

（質疑なし）

(4) 意見交換

外国人材の受入活躍推進に係る今後の方向性について

- ①外国人材に対する支援
- ②受入企業・団体等に対する支援
- ③送出し国との関係強化，本県の魅力のPR
- ④市町村・関係機関との連携

配付資料に基づき事務局から説明を行い，①～④の視点を踏まえて意見交換を行った。

【主な意見等】

①外国人材に対する支援について

- ・ベトナムでは製造業の人気の高い一方，建設や農業など3Kの職種は厳しい。時間管理ができていたり，冷暖房などの環境面もチェックされている。日本の環境に馴染めなかったり，言葉で困る人もいるので，企業，監理団体，市町村などさまざまなサポートの体制づくりが必要。[監理団体]
- ・外国人材の資格取得に係る試験・講習の場所，テキスト，講師などソフト関連の環境整備をお願いしたい。[業界団体]

②受入企業・団体等に対する支援について

- ・特定技能外国人の受入れにあたっては、監理団体のような支援ノウハウを持つ登録支援機関が増えることによって安心して外国人材を受け入れられるようになるので、体制づくりをお願いしたい。[業界団体]

③送出し国との関係強化、鹿児島県の魅力のPRについて

- ・特定技能外国人の採用は日本全国から募集されるので、良い人材の確保のため、いち早く相手国との関係強化、情報収集に取り組む必要がある。[監理団体]
- ・中国、ベトナムに続く第三国として、他県ではミャンマー、フィリピン、ネパールを選定する動きがあると承知している。インドネシアは、人口は多いが宗教上の問題がある。中国は、沿岸部では経済発展が進んでいるが、賃金格差が残っている内陸部においては、高校教育システムの中で日本語教育を1年間行う取組がなされているなど、引き続き人材確保の余地があるのではないかと聞いている。[監理団体]
- ・外国人材は総支給額よりも手取額を重視するので、住居費が安い、通勤距離が短いといった鹿児島県の良いところのアピールが必要。最低賃金が低い本県において、どうやって良い人材を受け入れるか、鹿児島県の魅力、企業の魅力の効果的なPRが重要。[監理団体]
- ・他県との競争の中で、鹿児島県のマイナス面を超えたアピールが必要。知恵を出し合っていいアピール方法を考えなければいけない。[業界団体]
- ・事業者ヒアリングにおいて、良い人間関係、働きやすい環境をすることで、口コミで、「その企業なら大丈夫だね」とか「鹿児島であれば大丈夫だね」といった声が広がっていると聞いている。[国]

④市町村・関係機関との連携について

- ・企業から日本語教室開催の要望が出ており、対応を検討している。[市町村]
- ・ベトナム語表記で作成したゴミ分別のカレンダーを配布する取組を開始した。[市町村]

(5) 外国人材受入活躍推進戦略の策定スケジュール

配付資料に基づき事務局から説明を行った。

(質疑なし)

以上